

2023. 2. 28

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行
TEL083-924-2113 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター 直通電話設置のお知らせ】

※直通電話の番号は、083-924-2113（子ども読書支援センター）です。どうぞご利用下さい。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：3月7日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：6組程度
《2月のおはなし会で使った本》

『おめんです1』 いしかわこうじ/作・絵 偕成社 2014.9

『まめまきパス』 藤本ともひこ/作・絵 鈴木出版 2019.1

『おにのパンツ』 鈴木博子/構成・絵 ひさかたチャイルド 2013.12

『おには一そと!』 すぎのこ保育園/脚本 童心社 2007.8

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2113 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『ナマケモノヨガ』 新井洋行/作 ポプラ社 2023.1 ¥1100

ナマケモノにもできるヨガ、ナマケモノヨガ。最初は深呼吸。まずは両手をパタパタへだっこをするよ！ナマナマケモノ、ナマケモノ！のリズムに合わせてやってみよう！うつぶせになって足を上げ下げ、ナマズ！あおむけだっこでおしりを上げ下げ、ナマはるまき！いろんなポーズでゆる～くやってみよう。楽しいリズムとポーズでスキンシップ。親子で一緒に楽しめるヨガ絵本。

<絵本-3, 4歳から>

『なんのかがずか？どうぶつ？』 やまがたしょうへい/さく・え パインターナショナル 2022.10 ¥1200

なんのかがずか？このシルエットは、はなのながーいあの動物だよ？ゾウの顔かと思いきや、ページをめくってみると…？耳のながいシルエット。ウサギの顔…じゃないんかい！首のながいシルエット。キリンがー頭…じゃないんかい！と思わずツッコミをいれたくなる、楽しく予想を裏切られるユーモアがいっぱいの影絵絵本。何がひそんでいるか想像力をふくらませてみよう！

<絵本-5, 6歳から>

『あずきのあんちゃんずんちゃんきんちゃん』 とみながまい/文 植垣歩子/絵 福音館書店 2023.1 ¥1000

お手玉から飛び出したあずきの三兄弟、あんちゃん、ずんちゃん、きんちゃんには願いごとがあった。あんちゃんの夢は、甘い甘いあんこになること。ずんちゃんの夢は、ずっしり重たい大豆になること、そしてきんちゃんは、のんきにのんびり気楽にきままに暮らすことが願い。ある日カラスが三兄弟をごくりとのみこみ…。あずき三兄弟のそれぞれの個性と成長が楽しい絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『つきよのアイスホッケー』 ポール・ハーブリッジ/文 マット・ジェームス/絵 むらおかみえ/訳 福音館書店 2023.1 ¥1800

物語の舞台は12月のカナダ。マイナス20度の日が続き森のビーバー池が凍りついた。待ちに待った少年たちは満月の夜、自分たちの足で雪に埋もれながら池へと向かう。月明かりのもと最高のスケートリンクでアイスホッケーをするために。寒くて深い夜の藍の景色と丸い月やきらめく星や雪の白が対照的に描かれ幻想的な雰囲気醸し出している。極寒の地に生きる少年たちの物語。

『ぼくのともしちは、あたまにはながさいている』 ジャーヴィス/作 まきもりれい/訳 岩崎書店 2023.1 ¥1600

ぼくの友だちのデイビッドは、頭にきれいな花が咲いている。彼はその花びらみたいにくふわりしていてやさしい。みんなデイビッドが大好きで、ぼくたちはいつも一緒に遊ぶ。ある日のこと、デイビッドは遊ぼうっていても遊ばず、おしゃべりもしなくなりました。頭のきれいな花も散ってしまい…。相手に共感想像し、寄り添うことの大切さを描いた優しい気持ちになる絵本。

<読み物-小学校低学年から>

『かがみのなかのボクとぼく』 あんずゆき/作 くすはら順子/絵 文研出版 2022.11 ¥1200

友だちがいなくて学校に行きたくない小学生のリク。唯一の友だちは鏡に映る自分。コウくんを押しおいたりキリちゃんに消しゴムを投げつけたりと意地悪をしてしまう。むねの中からあふれる灰色のもやもやが鏡を曇らせると不思議な世界に吸い込まれた。ワクと名乗る鏡の中のぼくはいう「いちばんなりたいたいリクになったらいいんだよ」と。意地っ張りな男の子を応援したくなる物語。

<読み物-小学校中学年から>

『ジャングルジム』 岩瀬成子/作 網中いづる/絵 ゴブリン書房 2022.12 ¥1400

定職を持たず自由に暮らす叔父とおんぼろ車でドライブする良太。姉を泣かしたかりんと張り合うすみれ。小学生になる前こっぴとママが離婚してしまった一平。父親の病死から悲しみに立ち向かうまみ。一人で暮らす祖父と両親のやりとりにもどかしさを感じる春木。現代の子ども達やその家族を取り巻く社会問題をさりげなく取り入れた短編5編。作者は山口県出身。

『いつか空の下で』 堀直子/作 あわい/絵 汐文社 2022.12 ¥1500

新聞クラブに入りたい小学4年生のあすか。ある朝、胸をえぐられる様な悲鳴を聞く。それは養鶏場から聞こえる処分されるニワトリの声だった。傷ついたニワトリを助けたことから養鶏場の現実を目の当たりにする。ニワトリの幸せのために自分たちができることを考え、みんなに広めたいと独自の新聞を発行するが…。動物の福祉や食育、食品ロス問題について考えるきっかけとなる物語。

<読み物—小学校高学年から>

『エツコさん』 昼田弥子/作 光用千春/絵 アリス館 2022.12 ¥1400

エツコさんは小学6年生の真名のおばあちゃん。かつては小学校の先生で、近所の人からはエツコ先生と呼ばれていたが、いつのころからか認知症に。迷子になりエツコさんに道案内をしてもらう樹、エツコさんが雨宿りにきた日菜、エツコさんのお守りを拾った航平、エツコさんと公園で記憶の話をしたユウト、そして孫の真名。5人の小学生との不思議で心温まる5つの物語。

『わたしはスペクトラム』 リビー・スコット レベッカ・ウエストコット/著 梅津かおり/訳 小学館 2022.11 ¥1500

タリーは10歳の女の子。命令されたり、計画が予定通りに進まなかったりすると、物や人に当たってしまう。みんなが期待する私と本当の私は違っていて…。著者の一人であるリビー・スコットが10歳の時自閉スペクトラム症である自身の目を通して描いた文章がツイッターで注目された。本作は数多くの児童文学作品を執筆するレベッカ・ウエストコットとの共著のフィクション。

<読み物—中学生から>

『保健室には魔女が必要』 石川宏千花/作 偕成社 2022.12 ¥900

「わたし」は魔女。「七魔女決定戦」の空席に選ばれるため、自分が考案した「おまじない」を流通させるために就いたのは中学校の保健室の先生。保健室にやってくる中学生たちは、新しい「おまじない」を広めるにはびったり。近所に住む作家や女優を兼業する魔女たちの妨害にあいながらも、中学生の悩みに向き合い、魔女として自らを鍛えている。全6話の短編集。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『パノラマずかん運転席』 宮本えつよし/作 羽尻利門/絵 パインインターナショナル 2022.11 ¥2200

折り込みページを開き、本を立てて見ると、臨場感あふれる車窓が広がる。電車、新幹線、シヨベルカー、バス、船、飛行機の運転席から見える景色が体験できる絵本。それぞれの乗り物の様子や働きについて分かりやすく説明する。運転席の装置について、名称や機能について詳しく紹介。巻末には、本書を使った絵探レクイズの問題と答えにアクセスできるQRコード付。

『たのしく上達!音読クエスト』 垣内幸太/編著 汐文社 2022.9 ¥2600

国語の授業や宿題で子どもたちが取り組む音読。音読とは「声に出して文章を読むこと」。脳の活性化や集中力アップなどの効果があるとされている。「ノーミス音読」「タイムアタック音読」等、ゲーム感覚を取り入れながら楽しく音読に取り組める方法やレベルごとの作品を紹介。親子で取り組める家庭や友だちとチャレンジし合う教室にもおすすめの1冊。シリーズ全3巻。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『日本の文学』 今中陽子/監修 KADOKAWA 2022.11 ¥880

夏目漱石「坊ちゃん」太宰治「走れメロス」芥川龍之介「トロッコ」等、日本の名作12作品を紹介。作品のあらすじが親しみやすいマンガで読める。作家の経歴や代表作、物語のキーワード、読書時のポイントについても分かりやすく紹介する。巻末には物語の舞台となった地についての掲載有。大まかなストーリーや登場人物の関係を把握でき、日本文学入門におすすめの一冊。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『大きな大きな大きな足あと』 ロブ・シアーズ/著 きたむらさとし/訳 創元社 2022.11 ¥2200

世界にいる80億ちかゝ数の人間をすべて合体させる実験をしたら、身長は約3キロメートル、体重は3億9000万トン。他の動物たちも合体させ比べてみると…。一年間に食べるものや切った木を合体させると…。比べることで気づく人間が引き起こしている問題。ユニークな視点で、環境汚染や絶滅する動物、これからの地球に人類ができることを考えるきっかけとなる1冊。

『めんはすごい!』 柴田書店/編 柴田書店 2022.12 ¥1600

フレンチの秋元さくら、イタリアンの宮木康彦、和食の笠原羽弘、中華の菰田欣也…4人のシェフがさまざまなめんを使った和・洋・中の料理を紹介する子どものための料理本。巻頭には、材料のはかり方や道具の使い方、材料の切り方、基本の調味料等について、言葉と写真で分かりやすく解説する。発展レシピやパスタの種類、料理の発祥の地についての豆知識のコラムも掲載。

<ノンフィクション—中学生から>

『プロの履歴書からわかる生きものの仕事』 松橋利光/著 山と溪谷社 2023.1 ¥1900

著者は子どものころから生きものが大好きな写真家。本書では、生きものの仕事のプロ80人に「なぜその道を選んだか」「どうやってその仕事についたか」などを取材し、履歴書形式で紹介。一言で「生きものの仕事」と言っても、非常に職種が多いが、違いが分かりやすい構成となっている。生きものに関する資格については、2022年11月現在の情報を掲載。

『13歳からのニュースウィーク くらしから世界がわかる』 栗下直也/著 CCCメディアハウス 2022.12 ¥1300

時事問題を扱っているニュースウィーク日本版編集部が携わり、これからの時代を生き抜くために考えるべきテーマを20取り上げて解説。世代、性別、国籍など様々な人が集うニュースウォーク商店街の人々が繰り広げるストーリーを通して、成人年齢からメタバース、ウクライナ問題まで、新しい知識と出会える。内容や用語についてはコラムや脚注でさらに詳しい説明あり。

<研究書>

『児童書作家の思いつき 子どもと子どもの本のためのヒント集』 杉山亮/著 仮説社 2022.11 ¥1150

「名探偵ミルキー」シリーズが30年以上のロングセラーとなっている杉山氏が、2019年夏から毎朝発信したツイートから選んだ140を5章にまとめた1冊。児童書作家になる前の保育士やおもちゃ作家時代の経験や、全国で展開している「ものがたりライブ」で訪問した日本各地での思い出が織り込まれている。「子どもの本」に携わる人や場所への応援団のような本。

『かわいくたのしいカードシアター ワクワクしかけがいっぱい!』 井上明美/編著 自由現代社 2022.12 ¥1500

平面的なカードを広げたり、折り曲げたりして、立体的になることで、様々なしかけを取り入れられるカードシアター。本書では、歌、名作、生活、クイズの4つのテーマの楽しいカードシアターを、演じる際のポイントやししかけの作り方、楽譜とともに紹介。コピーして使える型紙付き。シリーズにパネルシアター、ペープサート、スケッチブックシアターもあり。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

